



より多くの人にゆとりと安心をもたらすために、さらなる性能向上をめざしています。

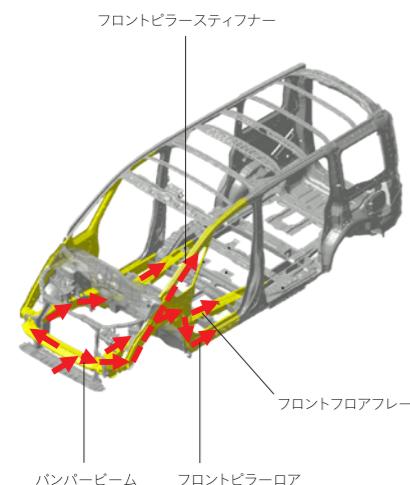
乗員はもとより、相手車両や歩行者まで配慮したボディ。

Hondaは、リアルワールドでの安全を見据えた衝突安全性能を徹底追求しています。Newステップワゴンでは、Honda独自のGコントロール技術により、「自己保護性能の向上」と「相手車両への攻撃性低減」を両立するコンパティビリティ対応ボディを採用。また万一の際に、歩行者にダメージを与えるやすいボディ前部を衝撃をやわらげる構造とした歩行者傷害軽減ボディとしています。



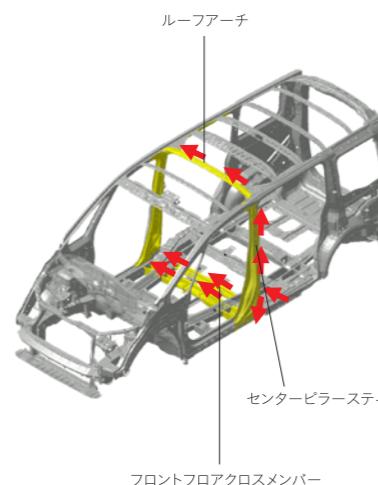
フロントロードパス構造

前面衝突に対しては、エンジンルームの40mm短縮にともない、フロントサブフレーム、アッパーメンバーとロアメンバー、それぞれの荷重をアップ。短いストロークで、衝突エネルギーを効果的に分散できる構造としました。



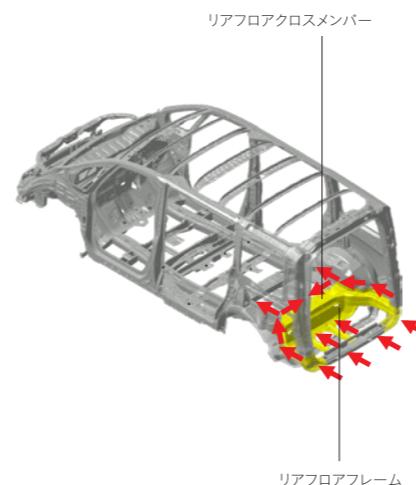
サイドロードパス構造

側面衝突に対しては、センターピラー、フロアクロスマンバー、ルーフアーチに超ハイテン材を採用。強固な環状骨格することで、効果的な衝突エネルギー吸収を可能にしました。



リアロードパス構造

後面衝突の際のエネルギーは、主に両サイドのリアフレアフレームに入力させ、その荷重を横方向のリアフレアクロスマンバーで受けとめることで、変形を抑制しています。また、今回追加したリアセンターフレームも衝突エネルギー吸収に寄与しています。



助手席用i-SRSエアバッグシステム

万一の衝突時に乗員の傷害を軽減する安全装備を充実して採用しました。なかでも助手席用エアバッグには、従来に対してバッグ内圧保持性能を高めたi-SRSエアバッグシステムを新たに採用しました。エアバッグは、乗員の着座位置、衝突の速度や形態(フルラップやオフセット等)、衝撃の大きさなどによって、望まし

い展開タイミングが異なります。内圧保持エアバッグは、乗員がエアバッグに接触するまでバッグ内圧を保持する構造を採用することで、高速衝突に対応する早期展開を実現しながら、中速衝突にも対応する乗員保護性能を両立させました。



【その他の安全装備】

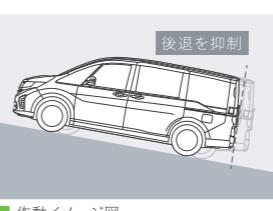
VSA (ABS+TCS+横すべり抑制)

ブレーキ時の車輪ロックを防ぐEBD付ABS、加速時などの車輪空転を抑えるTCS、旋回時の横すべり抑制。これら3つの機能を制御し、クルマの姿勢の安定化を図るVSAを全タイプに標準装備。



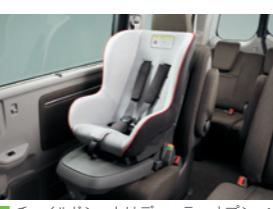
ヒルスタートアシスト

坂道発進時、ブレーキからアクセルへペダルを踏み替える瞬間のクルマの後退を約1秒間抑制するヒルスタートアシスト機能を全タイプに標準装備。



汎用型ISOFIXチャイルドシートロアアンカレッジ+トップテザーアンカレッジ

装着が容易。万一の衝突時、チャイルドシートの前方への移動を効果的に抑えます。



■ ISOFIXとは、誤使用防止、車両適合性の向上、取り付け方法の国際的な統一を目的とした、ISO(国際標準化機構)規格のチャイルドシート固定方式です。
■ 必ず適合するチャイルドシートをお選びください。

エマージェンシーストップシグナル

走行中に急ブレーキと判断すると、ブレーキランプの点灯に加えて、ハザードランプが自動で高速点滅し後続車に注意を促す、エマージェンシーストップシグナルを全タイプに標準装備。



LEDヘッドライト [タイプ別設定]

ロービームには、より明るく遠くまで照らし、省電力を実現するLEDを採用しました。点灯忘れも防止できるオートライトコントロール機構付です。



「早く」「優しく」「長く」膨らむ、独自のエアバッグ。

運転席用i-SRSエアバッグシステム(連続容量変化タイプ)&助手席用i-SRSエアバッグシステム(内圧保持式)を標準装備のほか、1列目シート用i-サイドエアバッグシステム(容量変化タイプ)、1~3列目をカバーするサイドカーテンエアバッグシステムをタイプ別設定しています。



■全タイプ、国土交通省「平成17年排出ガス基準75%低減レベル」認定を取得。



『平成17年排出ガス基準75%低減レベル』認定車表示マーク
平成17年排出ガス規制のNMHC、NOxについて、基準値を75%以下回る優秀な環境性能を達成した車両に与えられます。

■クルマ全体でリサイクル可能率90%以上*を実現。

*新型車のリサイクル可能率の定義と算出方法のガイドライン(1998年自工会)に基づき算出。

■日本自動車工業会が定める

環境負荷4物質自主削減目標を達成。

鉛：2006年1月以降 1996年レベルの1/10以下に削減
水銀：2005年1月以降 使用全廃
六価クロム：2008年1月以降 使用全廃
カドミウム：2007年1月以降 使用全廃

■リサイクル材の使用を推進。